

土肥原賢二の美女工作



山本武利

私は二五年前、アメリカ国立公文書館(NARA)で第二次大戦末期の中国戦線において日本軍が行ったインテリジェンス工作のかなりまとまった資料を入手した。それらは日本軍に対峙したアメリカ諜報機関の分析資料である。戦略諜報局(OSS)、陸軍諜報部(G2、CIC)などの数十のリポートで、各機関が昆明、広州、香港など華南での中国人女性を使ったスパイ、ハニートラップなど日本軍の工作を実名入りで追跡したものである。それらが興味本位のガセネタの集積ではなく、前線や後方での熾烈な攻防戦をまとめたものであることはたしかであった。

しかし裏付けとなるべき肝心の日本側の資料が集まらなかったため、私の部屋のファイルは埃が積もるだけであった。二年前に私は『陸軍中野学校——「秘密工作員」養成機関の実像』(筑摩書房)をまとめようとした際、二つの傍証を見つけた。一つは中野学校出身者が桂林の米空軍基地周辺のキャバレーに潜入させた中国人女性が米軍将校パイロットから入手した台湾爆撃の情報をその女性の兄の縦する定期航空便で香港まで運んでいたという雑誌記事であった。もう一つは日本軍が香港の映画女優やキャバレーの売れっ子に働きかけ、昆明に定期的に送っ

ているとのイギリス諜報機関(MI6)の歴史書の記述である。

川崎賢子さんの『もう一人の彼女——

李香蘭/山口淑子/シャーリー・ヤマグチ』

(岩波書店)の主人公山口淑子は満州・上海映画、日本映画で大衆人気を獲得した

女性である。「天才的な語学力と美貌が、

「李香蘭」の越境を支えた。それは彼女の才能であり、資質であり、宿命だった。

日本人男性と恋する中国人娘という、実際にはありそうにもない物語の表象を、彼女は可能にした(二二四頁)。

一九三八年初めて祖国に帰った下関での入国審査のとき、係員から「一等国民

の日本人が三等国の中国の服なんか着て、恥ずかしくないのか。それでも日本

じることが自己ならびに家族の安泰につながることを意識し、パーソナリティを

判で漢奸として処刑となった。川崎さんは今回の著書の「はじめに」

「漢奸」として処刑された。川崎さんは今回の著書の「はじめに」で、李香蘭が自身のもっとも熱心な収集家を、文献と証言を駆使して自身の体験を歴史のなかに位置付けようとする知的な誠実さにつらぬかれている」といっている。たとえば彼女自身があわや処刑となるところだったという「漢奸裁判」の実態がどうだったのか、後世の歴史家の誰もが知りたいところだが、いまのところ誰一人その「裁判記録」をみたという者はいないという（九九頁）。

「漢満蒙日朝の五族が協和していたかどうかは別にして、私はアジアに作られた多民族国家に生きていたことを改めて思い知る（同、九〇頁）。情報戦を巧みに遊泳した。プロパガンダ戦のみへの参入が彼女を存命させた。もうひとりの美女ヨシコ（川島芳子）は自ら参加したスパイ戦中心の謀略におぼれ、濁流に流され、汚名のみが残った。戦後母国での戦犯裁

じることが自己ならびに家族の安泰につながることを意識し、パーソナリティを分裂させたり、誘惑や薬物に逃避させたりするといった選択は自覚的に回避する理性的判断力を堅持していた。

本軍が香港の映画女優やキャバレーの売れっ子に働きかけ、昆明に定期的に送つ

の日本人が三等国の中国の服なんか着て、恥ずかしくないのか。それでも日本人か」と罵倒された。日劇舞台でも「拍手にまじって中国人を蔑む露骨な言葉が何度も耳に届いた。胸がふさがった。／＼悲しい。日本人の私が中国人と思われて差別されたこと、つまり祖国日本人々が何故にか私が生まれ育った母国中国を見くだすことが悲しかった（『李香蘭』を生きよ』五〇、五一頁）。

李香蘭はそうした心理葛藤を克服する。彼女は国策映画でつかわれる道化師的忍者の役割に無常を感じながら、自身の政治的社会的地位を自覚し、それを演

判で漢奸として処刑となった。川崎さんは今回の著書の「はじめに」で、李香蘭が自身のもっとも熱心な収集家を、文献と証言を駆使して自身の体験を歴史のなかに位置付けようとする知的な誠実さにつらぬかれている」といっている。たとえば彼女自身があわや処刑となるところだったという「漢奸裁判」の実態がどうだったのか、後世の歴史家の誰もが知りたいところだが、いまのところ誰一人その「裁判記録」をみたという者はいないという（九九頁）。

最も精確で信頼できる「天皇事典」

令和新修 歴代天皇 年号事典

米田雄介編 令和改元に伴い待望の増補新修。神武天皇から今上天皇までを網羅し、略歴・事跡、各天皇の在位中に制定された年号等を取める。付録も充実。1900円

検証 小笠原好彦著 奈良の古代遺跡 古墳・王宮の謎をさぐる 31遺跡を新説とともに紹介。「記紀」「万葉集」をふまえ、背後に展開した古代史を描く。2200円

海辺を行き交う お触れ書き 浦触の語る徳川情報網 水本邦彦著 海運や海難に関する「浦触」を読み解く。1800円 (歴史文化ライブラリー406)

日本における 書籍蒐蔵の歴史 川瀬一馬著 書誌学の第一人者が語る書籍コレクションの魅力! (読みなおす日本史) 2400円

事典 日本の年号 小倉慈司著 大化から令和まで、248すべての年号を、確かな史料をもとに平易に紹介。2600円

ロイヤルスタイル 英国王室 ファッション史 中野香織著 威光と親しみやすさを兼ね備える、スタイルアイコンたちの気高い物語。2200円

沖縄戦を知る事典 非体験世代が語り継ぐ【2刷】 吉浜 忍・林 博史・吉川由紀編 今、なぜ沖縄戦を学ぶのか? 67項目から全体像に迫る。2400円

吉川弘文館 〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8 電話03-3813-9151/価格は税別 P R誌「本郷」見本誌送呈

1、李香蘭が認めるように、養父縁組をして名づけ親でもあった李際春將軍は、親日派軍閥で、奉天特務機関長・土肥原賢二大佐に協力し、満州国建設や関東軍の華北工作に積極的に参加した人物である。李將軍はじめ名前が挙げられている政治家、軍閥は、この時期の日中関係で重要な役割を果たした要人たちである。それぞれ日本に対する立場は微妙に異なっていたという(一八頁)。こんな人物にいとしい娘をやる山口文雄という人物はいかなる男か。

2、山口文雄が同学会にいつごろ在籍したのか、正確な記録がない(九六頁)。なにゆえ父・山口文雄は北京の中国人記者クラブの幹事長と友人でありえたのか、その人脈に驚かされる。李氏の背景も、つまびらかでない(二三四頁)。

3、それにしても、よくよく考えてみると、家族より先に特務機関の青年(山家亨少佐)が現れて、転居や転校を説得する

るというのはおかしな話だ(二二頁)。

4、北京の家の「軍用電話」は、父・山口文雄のために敷設されたと考えるのが妥当ではないか。この家の誰が「軍用」の任務を負っていたのだろうか。軍の誰がなにゆえにそれを許していたのだろうか(二四〇頁)。

実父は李香蘭のなぞを解くキーパーソンである。中国語通訳・満鉄囑託の満州浪人であった。川島芳子の日本人の養父川島浪速も中国語通訳・浪人であったが、清朝側の信頼を得て、山口文雄よりも格上の支那浪人であった(波多野勝『満蒙独立運動』七三―七五頁)。満州浪人は明治後期から定職をもたず家族を顧みず東奔西走。「政府・軍部・実業家・新聞社・雑誌社」その他の民間有志からの調査費・機密費・補助金・寄付金・原稿料などを生活の資としていた(菅野長知研究)という(同、四四頁)。

「満州浪人もピンからキリまでである。

た。

土肥原は以降、配下の甘粕正彦らを使って二人の管理を行った。山口文雄も同

ピンのほうは満鉄から資金や援助をうけて、各地で林業や鉱山業をいとなみ、その下に数人の配下(浪人)を養っているというもの。また個人で満鉄の囑託となつて情報収集に当たるもの、あるいは大会社から捨てぶちをもらつて生活しているもの、などいろいろだが、キリのほうになると、都市のダニになっているやつがいた」。満州事変後、奉天で土肥原の指揮で関東軍は多数の不良浪人逮捕、高梁畑で皆殺しを行った(山口重次『消えた帝国 満州』一三二―一三五頁)。

私が見るに、実父は満鉄囑託としては厚遇されていたが、撫順の平頂山事件で抗日派への通牒を疑われ、以降山口家は満鉄を離れ、奉天、北京へと移り、漢奸大物や特務機関に依拠した形で生計をたてたのではないか。

内政干渉、武装反乱を教唆先導する青木宣純、坂西利八郎など支那通の系譜上にある土肥原の謀略は「いかがわしい中国人を組織して民衆の自発的な自治運動

実行されていることに気付き、警戒を強

めていた。日本軍の便衣隊は後方の本隊

司令部の指揮を受けて昆明、重慶を占

東大闘争総括

戦後責任・ヴェーバー研究・現場実践
折原 浩 著

安田講堂攻防戦50周年。この東大闘争で提起された諸問題が未解決のまま、ヴェーバー学者として闘争に立ち向かった著者の渾身の闘争総括書。綿密な資料調査と徹底した観察によって事実解明した驚くべき実態がついに明らかにされる。 2800円

まど・みちおという 詩人の正体

大橋政人 著

生前交流もあった著者が、童謡詩人としてばかりでなく、現代詩の異色の詩人まど・みちおに光をあてた評論と、洒脱なエッセイ集。 1800円

加藤尚武著作集

〈第11回配本〉全15巻

第12巻 哲学史 7800円

〔既刊本〕

- 第1巻 ヘーゲル哲学のなりたち 5800円
- 第2巻 ヘーゲルの思考法 6800円
- 第3巻 ヘーゲルの社会哲学 5800円
- 第4巻 よみがえるヘーゲル哲学 5800円
- 第5巻 ヘーゲル哲学の隠れた位相 6800円
- 第6巻 倫理学の基礎 5800円
- 第7巻 環境倫理学 6800円
- 第8巻 世代間倫理学 6800円
- 第9巻 生命倫理学 5800円
- 第13巻 形と美 6800円

書物復権

世論と群集

〔新装版〕
ガブリエル・タルド 著
稲葉三千男 訳 2800円

マルクス主義と言語哲学

—言語学における
社会学的方法の基本的問題
ミハイール・バフチン 著
桑野隆 訳 2800円

〔増補〕民主主義の本質

—イギリス・デモクラシーと
ビューリタニズム
A・D・リンゼイ 著
永岡薫 訳 2800円



未来社

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-18-9

TEL03-6432-6281

http://www.miraisha.co.jp/ 表示価格は税別

を装わせた。(中略)華北の権力ゲームはますます複雑微妙な様相を呈してゆくことになった」(戸部良一『日本陸軍と中国——「支那通」にみる夢と蹉跌』一八六一七頁)という。

一九三八年には土肥原賢二中将が諸謀略の中央直轄機関長として中国派遣され、諸謀略を支配した(松浦正孝『大東亜戦争』はなぜ起きたのか——汎アジア主義の政治経済史』七三四頁)。女性工作員を開発した土肥原賢二のソフト戦略における民族性の偽装の成功こそ最高の成果を生む。彼らの「李香蘭」イメージ作戦は抵抗なく大衆に浸透し、所期の目的を達した。

賢二の開発した女性工作が南西部で今も「満州のローレンス」でなく「中国のローレンス」と格上げされていた土肥原賢二の開発した女性工作が南西部で今も

た。

土肥原は以降、配下の甘粕正彦らを使って二人の管理を行った。山口文雄も東軍に生殺与奪の運命を任せられた。映画による大衆操作の重要性を認識した土肥原は満州映画協会の理事長に甘粕を配した。その人選は卓抜であった。甘粕は李香蘭をスターダムに押し上げた功労者であった。が、甘粕とてもピエロでしかなかった。

実行されていることに気が付き、警戒を強めていた。日本軍の便衣隊は後方の本隊司令部の指揮を受けて昆明、重慶を脅かす。米軍側に逮捕されたある女性は、「日本軍は嫌いだ、実家の親が日本軍の人質となつていたので、やむを得ず協力している」と弁解していた。司令部の中野出身の将校が彼女たちから送られる情報を整理、分析し、広州、上海や日本へ送り、且つ新たな指令を前線に発していたという。戦争末期まで土肥原戦略は生きていたのだ。

を装わせた。(中略)華北の権力ゲームはますます複雑微妙な様相を呈してゆくことになった」(戸部良一『日本陸軍と中国——「支那通」にみる夢と蹉跌』一八六一七頁)という。

た。

実行されていることに気が付き、警戒を強めていた。日本軍の便衣隊は後方の本隊司令部の指揮を受けて昆明、重慶を脅かす。米軍側に逮捕されたある女性は、「日本軍は嫌いだ、実家の親が日本軍の人質となつていたので、やむを得ず協力している」と弁解していた。司令部の中野出身の将校が彼女たちから送られる情報を整理、分析し、広州、上海や日本へ送り、且つ新たな指令を前線に発していたという。戦争末期まで土肥原戦略は生きていたのだ。

を装わせた。(中略)華北の権力ゲームはますます複雑微妙な様相を呈してゆくことになった」(戸部良一『日本陸軍と中国——「支那通」にみる夢と蹉跌』一八六一七頁)という。

た。

実行されていることに気が付き、警戒を強めていた。日本軍の便衣隊は後方の本隊司令部の指揮を受けて昆明、重慶を脅かす。米軍側に逮捕されたある女性は、「日本軍は嫌いだ、実家の親が日本軍の人質となつていたので、やむを得ず協力している」と弁解していた。司令部の中野出身の将校が彼女たちから送られる情報を整理、分析し、広州、上海や日本へ送り、且つ新たな指令を前線に発していたという。戦争末期まで土肥原戦略は生きていたのだ。